

# マダニに注意

英彦山青年の家 研修課

平成25年より、マダニを感染源とする感染症「重症熱性血小板減少症候群」の患者が日本国内において報告されており、死亡例も出ています。平成27年5月に福岡県でも初めての感染者が報告されています。すべてのマダニがウイルスを保有しているわけではありませんが、この英彦山においてもマダニは生息していますので、登山や散策等の野外活動を行う際には、特にご注意ください。

## マダニの特徴

大きさ 3ミリ～4ミリ  
吸血後 10ミリ～15ミリ

活動が盛んなのは  
春～秋（3～11月）

かまれても痛みやかゆみを感じず、気づかないことが多い



野生動物のいる森林や草地などに多く生息

### 【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）】

潜伏期間は6日～2週間。症状は原因不明の発熱（38度以上）、腹痛、嘔吐、下痢、食欲の低下などがあります。重症化すると、頭痛、筋肉痛、けいれん、せき、下血などが起こることもあります。

今のところ、有効なワクチンや治療薬はなく、対症療法が中心です。せきやくしやみからの飛まつ感染、空気感染はない。

英彦山で野外活動研修を行ったあと、6日～2週間で発熱等の症状があらわれた場合、医療機関で英彦山での研修を行ったことをお伝えください。

### 【感染しないためには】

- 野外活動の際には、長袖・長ズボンなどを着用し、肌を隠す。
- 帰着後は、肌や衣服にマダニがないか確認する。



### 【かまれたときは・・・】

一度かみつくと強くくっつき、数日にわたって吸血するので、無理に取らずにそのまま皮膚科を受診してください。無理に引き抜くと、マダニの一部が体内に残って化膿する場合があります。